

第35回危険物事故事例セミナー

事故防止調査研修センター

当協会主催の「第35回危険物事故事例セミナー」は、令和8年2月20日に東京会場にて、令和8年2月27日に大阪会場にて、それぞれ開催し、危険物行政に携わる消防職員や日頃、危険物の取扱い等の業務に携わっている事業所の方など、184名の方々にご参加いただきました。

今回のセミナーでは次の4題について、ご講演いただきました。

- 1) 堺市消防局 予防部 危険物保安課 保安係長 大野山翔二様から「同一事業所において短期間で硫黄の漏えいが3件発生した事案」と題してご紹介いただきました。この事案では、硫黄の海上出荷配管に付帯するスチーム配管から硫黄が約188kg漏えいする事故が発生、その6日後、当該事故に伴う検査中に硫黄の陸上出荷施設のバルブから硫黄が4,700kg漏えいする2件目の事故が発生し、さらにその約2週間後、硫黄タンクの吐出側のラインから硫黄が約1,900kg漏えいする3件目の事故が発生しました。これらの3件の事故は相互に関連しており、直接的な原因が引き起こされた背後に潜む間接的な原因も究明するため、事故原因の調査・解析を行った事例でした。
- 2) 名古屋市消防局 予防部 規制課 危険物担当主任 細井大誠様から「給油取扱所におけるコンタミ事故について」と題して、市内の給油取扱所において、灯油タンクにガソリンが混油した事例について消防本部の対応内容等を含めて、ご紹介いただきました。
- 3) 川崎市消防局 予防部 保安課 検査担当係長 難波真生様から「蒸留塔本体外面に設けられた保温材からの火災事故」と題して、危険物製造所で可塑剤を製造中、工程分析により品質異常を確認したことから、原因確認のため製造工程中の設備を一時停止していたところ、蒸留塔本体外面に設けられた保温材から出火した事例についてご紹介いただきました。
- 4) 危険物保安技術協会 事故防止調査研修センター 事故原因調査課長 塚目孝裕から「リチウムイオン電池の発火原因と火災事故事例」と題して、リチウムイオン電池が関係した火災事例の紹介と、発火の原因について解説させていただきました。

当協会では、これからも危険物の保安対策の推進に役立つセミナーを企画してまいりますので、引き続きご支援、ご協力くださいますようお願いいたします。



(左：東京会場、右：大阪会場)